

# 意味なき

# 命はない

2017/7/29 赤

相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で19人の

重度障害者が殺害され、27人が重軽傷を負った事件から

26日で1年になります。「障害者がいなくなればいい」

「障害者是不幸を作ることしかできません」などという

男性被告の身勝手で残忍な犯行に、体だけでなく心も傷

つけられた当事者、家族、地域住民ら。再び悲劇が起き

ない社会を願いながら園の再生にむけ新たな一歩を踏み

出しています。その思いは―。

「息子が施設の仲間と過ご がやまゆり園に入所していた

すようすを見ると、会話は交 尾野剛志さん(73)とチキ子

わさなくてもお互いの存在を さん(75)を神奈川県座間市

認め合いながら暮らしてい の自宅を訪ねると、息子の写

る。それがあったかい。事 真を愛おしそうに見ながら話

件当時、息子一矢さん(44) します。

## やまゆり園の仲間は家族

今は、やまゆり園の仲間と 横浜市内の入所施設で暮らす 一矢さん。夫妻は週1回施設 を訪れ、3人でチキ子さんの 手づくり弁当を味わいます。

### 頭の中が真っ白

あの日―。「事件を知らさ



一矢さんの写真を前に話を する尾野剛志さんとチキ 子さん―神奈川県座間市

れて頭の中が真っ白になって しまいました」と剛志さんは 振り返ります。

無我夢中でやまゆり園に向 かい、剛志さんの目に留まっ たのは、テーブルの上にある

紙。一矢さんは東京都内の病 院に運ばれたことが分かりま

した。おなかを刺されて重傷 でした。

160人定員の園は、1ユ ニット(生活単位)18人で構 成。一矢さんが暮らしていた ユニットでは、死亡した人が 4人、9人が重軽傷を負いま した。

事件から4日目。一矢さん が目を覚まし、剛志さんに 「お父さん」と言いました。 一矢さんの人生で初めての父 親への呼びかけでした。「私 のことをこんなに愛してくれ ていたんだ」と実感した瞬間 でした。

### パニックになり

約1カ月後、やまゆり園職

員が園の車で、園に近い病院 に一矢さんを転院させまし た。入院中、治ったら園に戻

ると剛志さんらは言っただけ せていたため、一矢さんはパ ニックに。食事もとらず薬も 飲まない。診察もさせない。

「もとに戻ることはないので はないかと絶望しました」と チキ子さんは話します。

数日後、鍋や炊飯器を自宅 から運び家庭的な雰囲気づく りをする。一矢さんは食べる ように。その後、昼食はやま ゆり園でとるようになり、ゆ っくり快方に向かいました。

やまゆり園の再生に向け、 県の専門部会は18日、園があ る千木良地域含め県内3カ所 に施設を整備する報告書案を 公表。剛志さんは訴えます。 「地域移行」というけれど、 やまゆり園は地域に根差して きました。一つの家、家族の

園をばらばらにしてしまうと いうのか」

# ばらばらにしない

# 入所施設には社会的役割

## 1面のつづき

昨年7月26日、凄惨(せいさん)な事件が起きた相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」。

その再生は、多くの利用者家族の願いは、事件前と変わらず同じ場所と同じ仲間と暮らすことです。

一方、国が「脱施設」「地域移行」をすすめる中で、今回の事件と結び付けて、同所に入所施設を

### 障害者殺傷事件

## 意味なき

## 命はない

再建することに反対する意見も上がっています。

### あまりにも乱暴

「やまゆり園のことも園で暮らす人たちのことも、園がある地域、千木良のことも何も知らない人たちが、事件が起きたら、施設を出る」という。やまゆり園は千木良の地域に溶け込んでいたのに。あまりにも乱暴ではないか。息子一矢さん(44)が事件で重傷を

負った尾野剛志(たかし)さん(73)は握った拳に力を込めました。

一矢さんは転院時、転院が予想外の出来事だったためパニックを起しました。「いまは慣れた職員と仲間とともに穏やかに暮らしている。知らないところにいきなり行けばパニックになる」と剛志さん。

一矢さんは現在、横浜市内の入所施設で暮らしています。1ユニット(生活単位)18人。1ユニットに広いリビングが一つ、食堂が一つあります。「重度重複障害の人たちが暮らす場所は、ゆったりしていた方がいい」

と妻子キ子さん(75)は強調します。

国は入所施設で暮らす人の地域移行を推進して

いますが、入所者13・2万人(2013年度末)のうち地域移行した人は、わずか4千人(15年

度末時点)です。都道府県に対して国は、地域移行の目標値を出させていますが、設定していない県もあります。厚生労働省がまとめた資料によると、各県はこう回答しています。

### 多数が入所待ち

「多くの入所待機者がいることを踏まえ、施設利用者が退所しても、その代わりに新たな入所者が発生する」(茨城県)、「入所待機者が年々増加しており、特に強度行動障害や重度障害などによる地域生活が困難な方が多数入所待ちをしている状況」(埼玉県)。現状は国の政策とかけ離れています。

者を受け入れるとの話を聞き問い合わせました。しかし、障害が重すぎると断られたといえます。市街地にグループホームを建設しようとするば、住民による反対運動が起こることも。

剛志さんは「国がもっと社会保障に予算をつければ『地域移行』もできるだろう。今の制度の中では、大規模入所施設は社会的役割がある」と強調します。

一矢さんの仲間の親が事件後、県内のグループホームがやまゆり園利用

「事件は、障害者を差別し排除する政治や一部の社会の風潮の中で起きたものでしょう。これを考えなおさなければならぬ。だけど、入所施設を障害者排除の象徴のように言うのも違う。安心して暮らすを求めることは間違っていますか」



閉鎖されてひっそりとした津久井やまゆり園＝相模原市